

縄文杉周辺の再整備に関する地域関係者への説明会 やりとり概要

1. 平成 26 年 12 月 4 日 屋久島町区長連絡協議会
2. 平成 26 年 12 月 9 日 屋久島町議会
3. 平成 26 年 12 月 11 日 公益社団法人 屋久島観光協会

1. 屋久島町区長連絡協議会への説明でのやりとり概要

日時：平成 26 年 12 月 4 日（木） 15:45～16:20

場所：屋久島総合センター 2階

行政側出席者：加藤（環境省 屋久島自然保護官事務所）

樋口（林野庁 屋久島森林管理署）

前田（林野庁 屋久島森林生態系保全センター）

小村（鹿児島県 屋久島事務所）

○ これを説明してどうしろというのか。

- 北側デッキの代替デッキについては、一度行政の考え方を示して意見を頂き、その後に町議会及び観光協会と関係行政機関による現地検討を実施してデッキのイメージをとりまとめたが、この度そのイメージを元に設計図が出来上がったのでその内容をお伝えするのが主旨。
- 区長の皆様の御意見も賜りたいが、集落に縄文杉デッキがどなっているのかを気になる方がいたら、今日の説明会の資料を紹介して頂き、何かあれば屋久島自然保護官事務所まで連絡するようお伝え頂ければと思う。

○ 誰がやったか知らないが、周辺の木々が切られて今の縄文杉の状態になっている。

○ 昭和 40 年代に最初に縄文杉を見たときは、近くに行かないとわからないくらい木々が生い茂っていた。

○ 観光も大事だが、自然も大切。自然の方を優先して考えて欲しい。

○ 何かを整備するのであれば、自然を壊さずに守ることを第一に考えて欲しい。

○ そうでなければ過去の二の舞になる。

○ 個人的には北側デッキの代替デッキだけで済むのであれば、もう新しく整備する必要はないと思うところがある。

2. 屋久島町議会への説明でのやりとり概要

日時：平成 26 年 12 月 9 日（火） 13:00～14:00

場所：屋久島町尾之間支所 3階会議室

行政側出席者：加藤（環境省 屋久島自然保護官事務所）

樋口（林野庁 屋久島森林管理署）

前田（林野庁 屋久島森林生態系保全センター）

小村（鹿児島県 屋久島事務所）

松田（屋久島町 環境政策課）

○ 新しく整備される代替デッキの収容人数は何人か。

→ 何人収容できるかという考え方で検討していないので特に定めていないが、北側デッキと同程度の大きさということで検討しており、実際には北側デッキより少し大きい設計になっている。

○ 提供する利用体験を定めているが、これ以上整備をしてもいいのか。現状維持が望ましいのではないか。

○ 「景観づくり」や「演出」という言葉の表現について、縄文杉を見世物のように扱う観点から使っているのだとしたら、考え方が違うと思う。

○ 自然との接し方については、一定の不便さが必要。今進んでいる観光産業と対峙しなければいけないが、それが屋久島の自然のためであり、環境省の役割として期待するところ。

→ 縄文杉を見世物のように扱う観点から「景観づくり」や「演出」という言葉を使っているわけではなく、縄文杉周辺は世界自然遺産地域でもあるため自然環境の保護が大前提だと考えている。

→ 提示したテーマでは、縄文杉だけでなく、その縄文杉を育てた生態系を有する森林景観と縄文杉はセットであるという考え方。

→ いずれ縄文杉が折れてしまったとしても、次の縄文杉を育む空間をしっかりと残して、折れた姿や二代目の杉の芽などを観賞してもらえるような、新しい縄文杉の価値を発信していければ、という想いもある。

○ 折れたときには大丈夫なのか。

→ 大枝の付け根の腐朽部分の周縁部にはまだ生きている部分があるため、強風や積雪等で枯損する際には、付け根の生きている部分を引き裂きながら落下することを想定している。

→ 腐朽が見つかった大枝の長さは 20m 程度であるため、付け根から 20m 以上離すことで安全を確保している。

○ 北側デッキの代替デッキができればケーブリングは撤去するのか。できれば外して欲しい。

→ 自然遺産地域内の自然環境の管理のあり方としては、自然の推移に委ねることを基本としていることに加えて、縄文杉の人工物は外して欲しい地域の声も多いことから、ケーブリングについては撤去することを想定している。

→ ケーブリングを撤去すると南側デッキの安全性を担保できないため、南側デッキも撤去せざるを得ないため、スケジュールについては検討が必要。

- 南側デッキの代替デッキとして想定されている場所にデッキを新たに整備することが、周辺の植生に影響を与えるのではないかと。
- 南側デッキの代替デッキとして提案している箇所は、灌木が多く大きな木は生えていない。灌木も密生しているわけではなく、新たに施設を整備することによる自然環境への影響は小さいと考えている。
- 植生を回復したときに、現実的には見通しが悪いから木を切れという話にならないか。また、遠くで見られないという意見が出てきたらどうするのか。
- 縄文杉を見せるための整備をするということでも、縄文杉周辺の植生を回復させて縄文杉を見られなくするというということでもなく、自然環境を保護しながら適正な利用も推進するというバランスを実現するために、テーマ設定を行ったうえで提供する利用体験を定めて、それを実現するための具体的な整備を考えている。
- そうした意見が出てきたときには、テーマ及び提供する利用体験に立ち返って、是非を判断する。
- 植生回復を図りながら見せる手法が重要であり、現地検討の際にも現場で十分に議論した。植生回復の観点からもデッキが必要だと考える。
- 現地検討に参加したものからすると、代替デッキの設計図については現地での協議がよく反映されていると思う。また、南側デッキの代替案についても、なかなか実際にみないとわからないかもしれないが、想定されている場所からの眺めは良いものだった。
- ガイドが説明すればいいので、解説版はいらないのではないかと。
- ガイドを利用する人ばかりではないので、観光地“屋久島”としてのおもてなしの観点から標識は必要だ。
- 縄文杉の基本的な情報については他の施設や書籍で紹介されているので、敢えて標識に記載する必要はないと思うが、説明頂いたテーマ設定やストーリーなど感じて欲しいことを説明することは大切ではないかと。
- 構造として、基礎の部分の強度や耐久性が十分に確保できるものにして欲しい。
- 縄文杉ではないが、紀元杉のケーブリングはどうなるのか。
- 紀元杉については、世界自然遺産地域外であるので、縄文杉とは考え方が異なる。
- ケーブリングしている枝にしか葉がない状態なので、その枝が折れてしまうと紀元杉が死んでしまう。

3. 公益財団法人 屋久島観光協会への説明でのやりとり概要

日時：平成 26 年 12 月 11 日（木） 19:10～21:00

場所：屋久島総合センター 2階

行政側出席者：加藤（環境省 屋久島自然保護官事務所）

樋口（林野庁 屋久島森林管理署）

前田（林野庁 屋久島森林生態系保全センター）

小村（鹿児島県 屋久島事務所）

松田（屋久島町 環境政策課）

- 代替デッキについては全体的に 2m 程度南側に移動して欲しい。
- 代替デッキの高さを 5m にして欲しい。
- 代替デッキ入口の階段はこのままの設計だと混雑してしまうので進行方向から入れるように検討して欲しい。
- 標識については、縄文杉を正面に見られる形でデッキの外に設置して欲しい。縄文杉の見やすい場所で、立つ位置の邪魔にならないところがいい。
- 標識については、縄文杉の正面では写真撮影や展望時の滞留の原因になるため、出口方面の場所に設置して欲しい。
- 縄文杉の幹のデザインについては、デッキ上に施して欲しい。深さ 1 cm 程度で幅 3 cm 程度であれば構造上問題はないはず。
- 代替デッキ出口の構造が一度南に行ってから階段を登るようになっているが、南に行く必要があるのか検討して欲しい。
- 模型がないとよくわからないので、模型をつくって説明して欲しい。
- 使うのは我々だから、最後の最後まで図面については確認して欲しい。施工する際にも我々の意見を聴くようにして欲しい。
- 何十年もしっかりと使えるものを整備して欲しい。
- 工期については繁忙期を外して欲しいが、詳細についてはスケジュールが決まれば教えて欲しい。
- 植生保護柵については、なるべくデッキ手前まで移動させて縄文杉を展望したときに見えにくくして欲しい。

→ 頂いた意見を参考に検討させて頂く。

→ 地面からの高さを 5 m にデッキを整備するのは難しい。縄文杉の見え方も検討しながら協議した現地検討の結果を踏まえて 1.5m としている。5 m にすると構造的に危険。

→ 模型については時間的に厳しい。

→ 12 月中、遅くとも 1 月の早い時期には、設計図を確定しないとイケない。

→ 植生保護柵については、代替デッキ完成後にデッキの前まで移動させ、展望を阻害しないようにする予定。

- 南側デッキの近さは残して欲しいので、同じような場所に代替デッキを整備して欲しい。
- 一番醍醐味があるのが南側デッキからの見せ方で、観光客が一番喜ぶ。
- 北側デッキの代替デッキが完成してから、南側デッキの代替デッキをどうするのかを検討したい。
- ケーブリングについては外して欲しい。

- ケーブリングを撤去すると安全確保の観点から南側デッキも撤去せざるを得ない。
- 環境省としては、大枝の付け根から 20m 以上離れた場所でなければ安全を確保できないと考えているため、南側デッキの近くに人を滞留させる展望デッキを整備することは難しい。
- 南側デッキを撤去後は、南側デッキの跡に出てくる過去の登山道を登山道として使用することを想定している。
- 少し幅を広めの登山道にするなどの検討の余地はあるが、縄文杉に近づける形で登山道の路線を変更することは難しい。
- 南側デッキの代替デッキの場所が決まらなければ、南側デッキは撤去できない。

○ 縄文杉の北側の沢の方にデッキを造る場合のスケジュールはどうなるのか。

- 南側デッキの代替デッキの場所さえ決まれば、平成 27 年度から設計業務に入り、平成 28 年度に整備することを考えている。
- 北側デッキの代替デッキを整備し、南側デッキの代替をどうするかを決めてから、南側デッキを撤去しつつ、南側デッキの代替デッキを整備し、ケーブリングを撤去するという流れ。

○ 北側の沢から見せる見せ方は良いと思うが、南側デッキの代替だとは考えていない。

○ 北側の沢から見せる見せ方は、観光協会が提案した周回路の代替だと考えている。

○ 南側デッキ付近に代替デッキを整備しないなら、北側デッキの代替デッキは地面からの高さを 5m にしてくれないと納得できない。

- 北側の沢から見せる見せ方は、南側デッキの代替と考えている。
- 周回路案は、南側デッキの撤去も含めた縄文杉周辺の再整備として観光協会より提案頂いたもので、北側の沢から見せる案は、その代替ではない (後日文書で回答)。

○ 南側デッキの代替デッキを北側の沢から見せる場所に整備するとなると、デッキの面積が減ることになるので観光業に影響が出る。観光立国日本の国立公園なのだから縄文杉周辺の再整備は観光を第一に考えて欲しい。

- 世界自然遺産地域であり、国立公園の目的は保護と利用であるため、自然環境の保護を第一に考えつつ適正な利用も推進するために、テーマを設定し、それに基づいて提供する利用体験を定め、それを提供できる施設になるよう想定している。
- 今回のテーマ設定は、縄文杉を見せるためでも、縄文杉周辺の植生を回復させて見えなくするためでもなく、世界自然遺産として保護することを示しつつ、時代に応じて変化するだろう保護と利用のバランスを順応的に管理していくために設定している。
- 世界自然遺産は保護していくことが前提となるのでその姿勢を内外に示しつつ、提供する利用体験を提供できているかについては継続的なモニタリングを実施して、客観的なデータに基づいて、保護と利用のバランスを検討できるようにしたいと考えている。

○ 現地検討では、遠くから見ると近くから見るという 2 段階で縄文杉を見せることを検討することになってはいたはずなので、再度検討して欲しい。

- 現地検討のまとめでは「将来的には南側デッキの撤去も視野に入れながら、現状の南側デッキを近くから見せる場所とし、北側デッキの代替デッキは遠くから見せる場所とする“2 段階”の見せ方とすることを検討。」となっているが、現在の南側デッキ撤去とセットで行われるケーブリング撤去を考慮すると、利用者の安全を確保する観点から、南側デッキの代替デッキを南側デッキ付近に整備することは難しいと判断せざるを得ない (後日文書で回答)。

- 北側デッキの代替デッキでは 400~500 人が来たら混雑してしまう。
- テーマについては伝えたいことはわかるが、ストーリーのなかでの仏像の例えは止めて欲しい。役所にそんなこと言われても困る。神ならわかる。
- テーマとストーリーについては、島の人意見を聴いて文章を考えて欲しい。
- 縄文杉ルートで屋久島の森を利用者が感じており、その森を通って来た最後に縄文杉がある。
- 屋久島全体があって縄文杉があるので、もう少し広い視野で考えて欲しい。